

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100832		
法人名	特定非営利活動法人 友愛ホーム		
事業所名	グループホーム手鞠		
所在地	静岡県 沼津市 西島町19-64		
自己評価作成日	令和3年 2月 26日	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出支援、季節事の行事に力を入れています。
 コロナ禍ではありますが、可能な限りイベントを中止せず、規模を縮小し行っています。
 利用者様の豊かな生活をサポートする為には、やはり外出、季節を感じて頂く事は、非常に大切なであり、
 目的の1つである地域の方々とのコミュニケーションは中々出来ませんが、職員は、コロナ対策で難しい状況
 でも、外出・イベントで楽しそうにいらっしゃる利用者様を励みに頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人理念として「認め合い 支え合い 感謝と笑顔」を掲げ、建物内に同法人の別施設があり、連携している。利用者らしさを第一に考え、癖や思考等を出来る限り受け止め認め合う支援を心がけている。毎年恒例の第3、第4地域包括支援センターとのコラボによる認知症カフェ「オレンジカフェ」を今年度も実施するなど、地域交流に注力している。全体会議等でリスクコミュニケーションを行い、面会も実施の方向性を崩さず制限しながら継続させている。オレンジカフェや面会時の利用者と家族が触れ合う笑顔が職員の日々のモチベーションに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認め合い、支え合い、感謝と笑顔を運営理念とし、研修にも取り入れ、組織の目的・価値観、指針・指導原理として実践している。	3月または4月に理念と基本方針に特化した研修を実施している。年2回の職員アンケートでは毎回理念に関する設問を加え、回答に関して具体的に話を聞き理解度を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	回覧板も回して頂き、地域の行事の情報を常に確認し、出来るだけ参加・協力している。	事業所のそうめん流し会への誘いは、例年自治会回覧板等で発信しているが、今年度は法人関係者のみでの実施となった。地区不燃ゴミ当番に参加し、避難訓練にも参加している。今年度も県看護学校実習生を2クールで計6日間受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議には近所の方々に出席して頂き、都度ご相談等を受け付けている。また地域の会議にも出席し、地域の介護課題についても話し合う機会もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、活動報告を行い、挙げられた意見に対しては、情報共有を行い、ミーティング等で話し合い、改善点に繋げていく。	会議は2か月毎に実施しており、議事録に参加者の意見と対応について記入している。8月と12月は参加者を事業所内に限定し、書面のみでの報告とした。報告のみの場合には、意見記入用紙と返信用封筒を同封している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員に運営推進会議に出席していただいている。また、書類等は管理者が直接届けるようにし、担当職員とかかわるようになっている。月に一度、市の訪問調査員の受け入れを行っている。	地域包括支援センターとの関わりは深く、運営推進会議に毎回参加がある。同センターと合同の認知症カフェを初回より継続している。例年運営推進会議と並行してカフェを行い、今年度は同センター職員4人と利用者家族4人が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する指針を作成、掲示し、研修に組み入れ、身体拘束廃止委員会も設置している。また基本、入ロドアは開放し、利用者様が自由に入出入り出来る。	管理者は、些細なことでも身体拘束の芽になる可能性がある事を日頃から職員に話している。お便りに載せる職員自筆コメントからスピーチロックになりうる芽を見つけるなど、事業所全体で多面的に留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	施設内において研修を行っている。リビングに防犯カメラの設置も行っている。ミーティングにおいて、利用者様からの意見を聞き、権利を守る為の話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様に実子がない方が、成年後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族様に十分説明を行っている。不明な点はないかお聞きし安心・納得していただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の折に意見を伺っている。面会時には必ずお声を掛けさせていただき近況報告をし、意見をいただいている。	運営推進会議で確認した家族の意見は、コロナ禍における不安や面会に関する要望であったが、状況に応じて柔軟に対応している。コロナ禍でありながら方法を検討して面会を継続しており、その機会にも意見や要望を聞いている。	以前は事務所に苦情箱を設置していたが、現在は休止している。たとえ意見がないとしても、家族の意見を聞いていることを伝えるツールとして復活させることが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、スタッフからの意見を聞き、皆で話し合っている。代表、管理者は現場の関わり、職員との意見支援の場を作っている	年2回の職員アンケートの結果を踏まえ、理事長である管理者が話しを聞いている。支援に関する意見は、毎月の全体会議で話し合っている。ワークライフバランスに関わる要望等は、職員の方から相談がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングは代表も参加しており、現場の意見を聞く機会を作っている。年2回職員アンケートを実施。代表が確認し、話し場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を提供し、参加をすすめている。月1回のペースで施設内研修を行っている。資格取得にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム沼津南部地区の会議への参加を通して、他の施設のスタッフとの交流・意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様とご家族様と面会し、総合的な情報を得ることで入所後の不安をなるべく解消できるように努めている。 ご本人様にご納得するまで話を聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と面会し、状況や不安な点等細かなところまで情報を得る。また、入居契約時にもサービスについても改めて説明を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様・ご家族様と面会し、情報を得て、またご希望を伺いながら、それもとにスタッフ間で意見交換し、サービスの見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にもあるが、利用者様と職員は支え合う関係としている。また、業務優先ではなく、利用者様と共に行い、同じ時間を過ごすよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況変化等は、ご家族様に報告説明し、問題と解決策を共有することにより共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や生まれ育って過ごされた思い出の場所の話を伺ったり、場合によってはその場所を訪ねる機会を作っている。 ご本人のご希望で墓参り、他施設への訪問も付き添う。	帰宅願望のある利用者の家族が、自宅のペットを連れて面会に来てくれている。同法人デイサービスのドライバーが空き時間を利用して、思い出の場所まで出向いてくれる事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビング自席、自室の位置に配慮。 共同で何かを行う際には全員に声を掛け、ご希望を伺う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にも、ご家族様からお手紙を頂く事もある。ご高齢になり介護サービスを検討されている場合等にもご連絡頂く事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴を大事にし、ご本人様のご希望を伺い、それに沿ったケアが行えるように努めている。	毎月の全体会議時に利用者全員とミーティングを行い、話を聞く時間を設けている。個々の写真を印刷した用紙を見ながら、本人の過去の思い出や様々な思いを職員が書き込み、介護計画に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様の情報を通じて把握すると共に実践し希望に添える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活記録を記入し、職員間で申し送りを行い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにおいてご本人、職員、運営推進会議、面会時にご家族様の希望、思い、意見を話し合い、ケアプランに反映している。	職員全員が日常的に小さなモニタリングを積み重ねている。モニタリングとして問いかける素材はケアマネジャーが用意し、全体会議で意見を集約して介護計画に反映させている。見直しの基本は短期半年、長期1年で、都度家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を生活記録に記入し、職員間で申し送りを行い情報を共有している。変化がある際は計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍ではあるが対策を行い、面会は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	第三・四包括と共同で定期的にオレンジカフェを開催。ボランティアにも協力して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様に説明し、納得された後、施設の提携医院を主治医とし往診に来てもらっている。必要な時は電話にて助言・支持をもらい、検査などに付添い、適切な医療を受けられるよう努めている。	現在は利用者全員が協力医をかかりつけ医として、月2回の定期往診を受けている。協力医の紹介による専門医の受診体制も整っている。職員2名が看護師兼任で常に体調等の把握をしており、迅速な対応が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師に必要に応じて相談、情報共有、対応を依頼する。 提携医院担当看護師にも必要時には助言・指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医院との連携は十分に務めている。 他医院を定期的に医療処置を行っている方にも十分連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応、看取りに関する指針を作成、職員に周知、研修を行っている。 契約時にも説明し、計画作成担当者を中心に個々の連携を取っている。	この1年半で行った4人の看取り支援は各々7日程度であった。マニュアル「看取り介護とは」で準備を行い、ベテラン職員が新人に心構え等を話している。家族、医療、職員がチームとなって支え合い、最期まで利用者に寄り添う支援を心がけている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応、事故時の対応の研修を行っている。またマニュアルをすぐに確認できる位置においてある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期訓練を行っている。 地域の避難訓練には必ず参加し町内の方々にホームがある事を知ってもらい協力をお願いしている。	ハザードマップで津波避難訓練対象地区となっている。年2回災害別の想定訓練を実施し、10月に津波と火災想定で上層階への避難と初期消火訓練を行っている。備蓄は7日分の用意があり、蓄電池については検討中である。	災害別の避難に際し、迅速に避難するための待機場所を消防署と打ち合わせておくことが望ましい。飲料水の備蓄はあるが、トイレ等の生活用水について検討が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行っている。ミーティング等の機会がある事、個人の尊厳を守る声掛け・対応を行えるよう管理者が指導をしている。	管理者は、時間が許す限り現場で職員の接遇について確認している。気になる対応等には、「周囲からどう見えて、どういう感じを与えるのか」が大事であると職員に伝えている。個人情報鍵付キャビネットに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で思い・希望を引き出し、記録している。また、ご希望を言いやすいような言葉使いに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで日々毎日過ごしていただいている。危険の無い限り、ご自由に過ごして頂いている。何かを強制したり、急がせる事もしない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には着替え、身だしなみの支援。月1回ずつ、理容室・美容室が訪問してくれる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状況にあった形態で食事を提供。時間を決めずゆっくり召し上がってもらう。毎週日曜日は利用者様の好みの献立を伺い、一緒に調理をしている。	平日は法人調理専門職員がメニューを考え、手作りで調理している。休日は利用者の希望メニューを取り入れ一緒に調理している。当日昼には美味しそうな匂いが漂い、食卓には自分で選んだランチョンマットを敷いていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分量は毎日チェックし、記録している。 お茶の時間は、ご本人様のご希望を伺っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず全員に声を掛け、口腔ケアを行っている。ご本人の状況に応じ、支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、個々に応じてトイレ誘導を行っている。 ご本人の状況に応じ、支援を行ってが危険の無い限り、トイレ内ではご自身で対応してもらっている。	高齢化に伴い、布パンツの人がリハビリパンツに変更になっている。誘導の際には、本人が不安にならないように、良いイメージを与える言葉掛けを心がけている。拒否のある人には、興味を引く言葉や話を取り入れて誘っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックをしている。 水分等で自然排便が出来るよう支援しているが状況に応じ、ナース、医師に相談し対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人様のご希望を伺いながら、入浴日・入浴時間を決めている。 無理強いせず、状況に応じ、柔軟に対応している。	週2回午前中に入浴機会があり、お湯は完全入れ替え制である。湯の適温は夏場で38～39度、冬場は40～41度で、湯船に温度計を入れて測定している。2人介助に危険を感じて入浴を拒否した人には、機械浴を勧め安心して入浴に至った例がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具は以前より使っていたものを使用。 生活パターンを把握し、個々の習慣に応じて対応し、居室内の室温、湿度等にも注意を払っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をすぐに確認出来るように配置。 居宅療養管理指導の契約があるので、薬剤師にすぐに相談出来る体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のお手伝いは(食事の配膳、洗濯干等)必ず声を掛け、行ってもらっている。 音楽が好きな方が多い為、youtube等で好きな音楽をかけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ミーティングにて、ご本人様のご希望を伺いながら、散歩・ドライブ・外食を支援している。 ホームの行事にはご家族様や地域の方々にも参加していただいている。	当日の天気や利用者の体調等を踏まえ、個々の希望に合わせて散歩やドライブに出かけている。玄関外にカラフルで色違いのベンチが数個並んでおり、その時の気分好きな色を選んで日光浴を楽しむことができる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の時に予算を説明して、その範囲内でお好きなものを選んで購入している。現状はお金を所持、使う方が難しい方が多い。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればその都度に応じている。ご家族から手紙が届いた際には、お返事を書く様、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、大きいカレンダーを掲示。室温にも注意し、エアコンの風除けも設置。また、居室にこもりっぱなしにならないように声掛けをし、常に利用者様はリビングに集まり、テレビをみたり・歌を歌ったり雑談したりされている。	玄関には生花と熱帯魚の水槽が置かれ、居間の壁には習字の作品や手作りの月カレンダーが飾られている。少し窓を開けて常に換気を行い、定期的に消毒も行っている。コロナ禍により、往診は相談室を利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士で話しが出来たり、一人で好きな事をしたりと過ごせるよう、リビング席の配置に気を配っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にも昔から使っていたタンスやテレビなどを配置し、趣味のものもおいてある。茶碗、箸等は個々のものを使用してもらっている。	ベッド、洋タンス、エアコン、防火カーテンが備え付けで、洗面所は共有で居間に設置されている。四季の衣服は予め預かっていて、衣替えは職員が行う。交換や補充の際は家族に連絡している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体状況に対応した居室の配置としている。		